

夢は海外のペンショー出展 “万年筆倶楽部”を主宰して活動



インテックソリューションパワー 山崎 幸造

インテック愛媛センターでシステムの開発に携わる山崎幸造さん。山崎さんは実は、知る人ぞ知る万年筆のコレクターです。これまでに集めた万年筆は約3,000本。万年筆の“調整”や万年筆倶楽部の主宰など、その活動は収集にとどまりません。山崎さんに万年筆の魅力、万年筆を通じた交流について聞きました。



どんな点に魅力を感じますか？

万年筆で書いた手紙を後で見直すと、考えて手が一瞬止まった部分にインクの“だま”ができていたりします。そんなインクの濃淡や文字の抑揚など、手書き文字の温かさにひかれます。学生時代から万年筆に憧れ、社会人になって初めての給料でペリカンのトレドという万年筆を買いました。最初で最後の1本のもつもりでしたが、そこからはまってしまいました。今一番気に入っているのは、セーラー80周年のブライヤーという木軸の万年筆です。

“調整”もされると聞きました。

不具合を直したり、ペン先の滑りやインクの量、文字の太さなどを書く人の好みや癖に合わせて調整したりするのが万年筆の“調整”です。加えて、私は各メーカーの個性を殺さない調整を心がけています。

技術はメーカー主催のペンクリニックに頻繁に通い、プロの調整師の作業を見学して独学で学びました。メーカー以外で調整ができる人は日本に10人はいないと思います。

“万年筆倶楽部”でイベントも開いていますね。

万年筆好きが集まる場を作ろうと、5年前に万年筆倶楽部を作りました。経営者や大学教授、医師、弁護士など様々な方々がメンバーです。アナログなものを求めてかIT業界の人も多いのですよ。

私たちのコンセプトは、メーカーと代理店、販売店の真ん中にいたいということです。例えばメーカーには「こんな万年筆を作ってほしい」、代理店には「こんな万年筆を輸入しては?」、販売店には「こんなオリジナル万年筆を作っては?」などの提案をしています。賛同してくださるメーカーや販売店も多く、倶楽部のオリジナル万年筆も作りました。

また、倶楽部では年1回、万年筆を楽しむイベントを開いています。昨年7月に大阪で、万年筆の展示や調整教室、相談受付などを行いました。大きな紙を敷き詰めて好

きなだけ落書きできるキッズコーナーや、上質な便箋と万年筆で手紙を書こうというコーナーも設け、1日で延べ100人の方に来場していただきました。

今後してみたいことは？

いつか海外でイベントをしたいですね。ワシントンでは毎年、全米からバイヤーや愛好家が集まるペンショーが開かれます。ここにブースを設けて展示や調整をしたいのです。海外では、インクが出なくなったら新しいものに交換するか、振って出るようにします。振って出ればそれでいいと考えられていますが、日本では書き始めのファーストタッチから快適な書き味を求めます。日本人の繊細な“調整”を「どんなもんだ」と見せたいのです。これは大きな夢ですが、その前に…、今年9月に北海道で日本初のペンショーが開催されます。私たちの倶楽部も参加して盛り上げていきたいと思っています。



万年筆の調整教室

万年筆を一言PRしてください。

万年筆は“扱いが難しい”“ガリガリとした書き味が嫌だ”“インクが出ない”などのイメージがありますが、そんなに難しいものではありません。きちんと調整した万年筆で書くと、手が疲れず、文字に濃淡が出て趣があります。ぜひ、その良さをご自分で発見してください。初めての方はボールペンなどの強い筆圧に慣れているので、ペン先が固めのものを選び、徐々に慣れていけばいいでしょう。まずは、好きなデザインのを一本選んでみてください。

クラウドと情報機器を結び 新しいサービスモデル創出を目指す 「Tクラウド研究会」に参画

昨年6月、情報機器とクラウドの連携による新しいサービスモデル創出を目指す「トランスペアレントクラウドコンソーシアム(略称:Tクラウド研究会、会長:江崎浩東京大学教授)」が設立されました。この研究会の発起人でもあり、現在は幹事として活動を推進するインテック先端技術研究所の中川郁夫主席研究員に聞きました。

Q 研究会設立の背景は?

近年、センサーや情報機器から取得した情報をクラウドで保存、処理するなど「情報機器とクラウドの連携」が行われるようになりました。自動車や建物、家庭、医療など多くの分野で、この連携による新サービス創出に期待が集まっています。



先端技術研究所 中川郁夫

一方、実現のためにはまだまだ多くの課題があるため、今回、企業や大学が業界を超えて連携し、課題解決や新サービスの企画・研究、技術開発を行う「場」をコンソーシアムという形で実現しました。

Q 発起人として設立にも尽力されたと聞きました。

コンセプトや方向性は東京大学の江崎浩教授を中心に固めました。また、スマートカー関連ではトヨタIT開発センターの今泉英明氏、スマートビルディング関連では清水建設の廣瀬啓一氏など、活動の中核になる方々が発起人として参加され一緒に骨格を作りました。当初は数社程度でスタートする予定でしたが、賛同して下さる方が多く、気がつくとも30社近くの企業が参加していました。

Q 自動車や住宅、通信など多彩な企業が集まりました。

サービス提供者という立場では自動車メーカーや建設会社、広告代理店など様々な業界の有名企業が、またIT業界からは通信事業者やデータセンター事業者、大手メーカー、データ解析を行うベンチャーなど多様な企業が参加しています。トヨタIT開発センターとホンダ、電通と博報堂な



Tクラウド研究会 会長
東京大学情報理工学系研究科 教授
江崎 浩 氏

21世紀、クラウドは社会・産業インフラの重要な基盤となります。インターネットと同様に、クラウドもすべての業界にまたがる“透明な基盤”を目指さなければなりません。Tクラウド研究会では、機器と機器が情報を交換するM2M(Machine-To-Machine)の時代に向けて、個別の開発や特別な仕組みを必要とせず、透過的(Transparent)に利用できるクラウドのあり方について研究します。また、さまざまなビジネス領域で、クラウドを用いた効率的で具体的な利用モデルを研究し、実現へと進めてまいります。

ど、同業種で本来なら競合するような複数の企業も参加しています。まさに業界を超えて議論、活動する「場」となりつつあり、ビジネスアライアンス的な活動も始まっています。

Q どのような新サービスが想定されますか?

例えば海外では、自動車のGPSを使った位置情報のもとに、運転した時間や距離に応じて自動車保険の料金が決まる“Pay As You Drive”というサービスが始まっています。センサーで運転情報を取得しクラウド側に蓄積、保険に反映させるものですが、リスク管理がしやすく、結果的に安価な保険料を実現しています。

コンソーシアムでは、スマートホームやスマートメーターなどのプロジェクトも立ち上げています。活動は始まったばかりですが、生活を便利に、そして人を幸せにするサービスが生まれることを期待しています。



Tクラウド研究会のホームページ: <http://t-cloud.org>
お問い合わせ先: Tクラウド研究会 事務局 E-Mail: sec@t-cloud.org

インテック

大阪市内に「大阪第2DC」開業

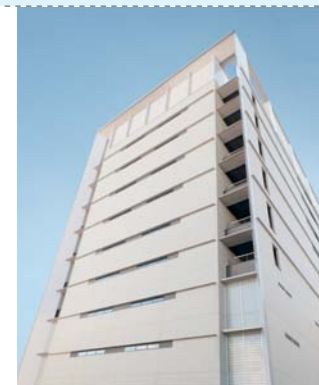
インテックは昨年10月、関電システムソリューションズと協業し、同社が2011年12月に稼働させた新型データセンター内に「大阪第2DC」を開業しました。

大阪市内2カ所目のデータセンター「大阪第2DC」は、関西電力グループのもつデータセンター運営ノウハウを生かし、継続的な受電を可能にする電源設備、建築基準法の1.5倍の性能を誇る免震構造を備えています。運用・監視はインテック保有の「大阪DC」を関西地区のコマンドオペレーションセンターと位置づけ、「大阪DC」「大阪第2DC」を一元的に管理します。

ファシリティの提供にとどまらず、災害対策(DR)やクラウドサーバ基盤、高品質で均一化された運用サービスなど、付加価値の高いソリューションを提供していきます。

インテックは、首都圏・北陸・関西の高機能データセンター

お問い合わせ先: 株式会社インテック サービスソリューション営業部 TEL:06-6376-3695 E-Mail: vdc-west@intec.co.jp



大阪第2DC

を接続したクラウドサービス「EINS WAVE」を昨年6月から始めています。今回、「大阪第2DC」が加わったことで、サービス基盤の信頼性を一層高め、お客さまのBCP(事業継続計画)強化にもさらに貢献できるようになりました。

広域仮想クラウドサービス「EINS WAVE」

首都圏・北陸・関西の高機能データセンターをひとつの広域仮想データセンターとして機能させ、仮想サーバやデータ・バックアップなどのIT基盤サービス「IaaS」、電子証明書やID認証などクラウドを安全に利用するためのサービス「PaaS」を提供。完全二重化した運用システムで一元的に管理し、高機能で高品質な運用をクラウド環境で実現している。

<http://www.intec.co.jp/service/einswave/index.html>

インテック

動態管理クラウドサービス「i-Lism(アイリズム)」 低コストで簡単に“位置情報”

インテックは昨年11月より、GPSで位置情報を「簡単に」、「低価格で」取得する動態管理クラウドサービス「i-Lism(アイリズム)」の提供を開始しました。

動態管理は、車両や荷物をはじめとした動くモノや人の位置・状況を取得し、地図上で一括して管理するものです。「i-Lism」は位置情報の取得と集約のための仕組みをクラウドサービスで提供します。「位置情報を取得するサービス」として、あたかも部品のようにどんな業務アプリケーションとも連携して使うことができます。

今後、AR(拡張現実)や屋内位置推定技術との連携、地図情報サービスの活用などの機能拡張を予定しています。また、インテックのビッグデータ処理技術を応用し、マーケティング・販促分野で位置情報を活用するサービスも展開していきます。

お問い合わせ先: 株式会社インテック 流通ビジネス室 TEL: 03-5665-5053

インテック

「環境未来都市事業準備室」設置 富山市のプロジェクトに参加、事業化を目指す

インテックは1月1日付で「環境未来都市事業準備室」を設置しました。本社を置く富山市は内閣府より「環境未来都市」のひとつに選定されており、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを推進しています。昨年4月より富山市の主導で「環境未来都市とやまプロジェクト」が形成され、インテックも参加してきました。

インテックは、富山市およびプロジェクト参加各企業とのパートナー関係を強化し、ICT企業としての役割を確実に遂行していきます。この取り組みをベースに、今後大きな市場として期待されるスマートシティ関連事業を、当社の事業として育てていく計画です。



環境未来都市事業準備室 室長 大間知 一彦

スカイインテック

インテックアメニティとスカイインテックが合併

今年1月1日、インテックアメニティとスカイインテックは、経営の効率化と収益力の強化を図るため、存続会社をインテックアメニティとして合併しました。同日、インテックアメニティは商号を「株式会社スカイインテック」に変更しました。新しいスカイインテックは、旧インテックアメニティが行ってきた総合ビル管理・不動産賃貸・運送・生損保代理業・植栽などの事業に加え、旧スカイインテックが行ってきた広告・イベント企画・印刷・調査などの事業を行ってまいります。

● 合併後の新会社について

商号：株式会社スカイインテック
本店所在地：富山市牛島新町5番5号
代表者：代表取締役社長 今堀喜一
代表取締役専務 山野昌道

アイ・ユー・ケイ

大連でBPO事業を本格展開

近年、日本企業の総務・人事・経理などのバックオフィス業務や手書き伝票のデータエントリーを中国で行うBPO事業が急速に成長しています。アイ・ユー・ケイ(IUK)が出資するBPO会社「艾珂威尔信息技术服务(大連)有限公司(EchoWill社)」も2011年9月の設立以来、積極的に事業を展開しています。EchoWill社のある大連市は中国政府が日本語教育に力を入れてきた地域で、日本語人材は5万人以上と言われています。

同社は現在、日本の大手住宅メーカーのCAD設計を受注し30名体制で業務を行うほか、経理業務のBPOも受注しています。BPOには間接コストの削減だけでなく、業務分析によって無駄を洗い出し、業務量自体を減らすという利点があります。

IUKとEchoWill社は今後も、CAD設計や財務管理など専門技能が必要な業務、ビッグデータ分析など難度の高い業務のBPO受注を目指します。IUKは新たな注力事業の一つとしてBPOを位置づけ、お客さまの業務コストの削減や業務効率の改善を提案してまいります。

BPO：ビジネス・プロセス・アウトソーシング



お問い合わせ先：株式会社アイ・ユー・ケイ TEL:03-5348-7311

高志インテック

久保真佐人さん、砲丸投げで優勝

高志インテックの久保真佐人さん(28)は昨年10月、第12回全国障害者スポーツ大会「ぎふ清流大会」に富山県代表として出場、砲丸投げ(聴覚障害者等男子一部)で優勝しました。

久保さんは普段、プログラミングやシステムの詳細設計を担当しています。インテックの販売管理システム「社長の右手」プロジェクトに従事するかたわら、富山県主催の強化練習会などで練習を積み、予選では県新記録をマークして「ぎふ清流大会」出場を決めました。

同大会では肩を痛めていたものの13m80cmを投げて優勝。「ウシャーン」と叫びたい気持ちでした。やはり1位



は気持ちがいいものですね。18歳で出場した時はケガのために満足な記録を残せず悔しい思いをしましたが、リベンジできました」と、久保さん。

優勝はしましたが、記録には満足していないそうです。「自己ベストは14m70cm。もう一度予選に参加して目標の15m突破を狙いたい」と、次の大会に向け筋力トレーニングを開始しています。

インテック

「マイナンバー制度への対応」を説明

昨年10月、東京ビッグサイトにて「地方自治情報化推進フェア2012」が開催されました。インテックは地方自治体向け総合情報システム「CIVION-7th」などを出展するとともに、24日には公共ソリューション企画部長の安平剛が「地方自治体におけるマイナンバー制度に向けた事業推進のポイント」を説明しました。同制度への関心は高く、多くのお客さまが来場されました。

「マイナンバー制度」は社会保障・税の各制度における効率性、透明性の向上を図り、給付や負担の公平性を確保する社会的基盤として、政府が導入を目指しています。すでに国・地方自治体では、導入に向けた検討・準備が開始されていますが、民間企業でも対応が必要になります。

マイナンバーは、国民一人ひとりに付番され、年金や福祉などの社会保障分野と国や地方の税務分野のほか、

災害時などの幅広い利用が見込まれています。

一方、法人番号は、登記法人、源泉徴収義務・特別徴収義務・法定調書の提出義務がある法人等に付番され、利用範囲の制限がなく民間でも自由に利用することができます。

同制度の導入に向けては、「マイ・ポータル」を利用した行政サービスや「情報提供ネットワークシステム」を利用した安全に情報を活用するためのしくみなどが整備される予定です。

インテックはマイナンバー制度に向けて、幅広くソリューションを提供してまいります。

お問い合わせ先：株式会社インテック 公共ソリューション企画部
TEL:03-5665-9904



インテック武漢

インテック武漢、移転して業務開始

インテックの中国におけるソフトウェア開発拠点であるインテック武漢は、セキュリティゲートが設置されるなど保安体制がより整った新しいオフィスビルに移転し、昨年9月より業務を開始しました。

オフィスビルは湖北省政府や武漢大学など政治・教育の中心である武昌エリアにあり、昨年末に開通した長江を横断する地下鉄2号線近くに位置しています。新事務所は日本と同様のセキュリティレベルで、特定プロジェクト向けの専用開発室も設置しております。また、昨年7月には、ISO27001情報セキュリティ管理体認証の2012年度審査に合格するなど、お客さまにご安心いただける高いセキュリティレベルの開発環境を整えております。

インテック武漢は今年11月に設立10周年を迎えます。これまで以上に生産性、品質、セキュリティの向上に努め、ご満足いただけるシステム開発サービスを提供いたします。



インテック武漢が入居するビル

〒430071 中国武漢市武昌区中北路101号1号楼 楚商大厦18階
TEL +86(27)8266-9890 FAX +86(27)8726-7996
http://www.intecwh.com

インテック

快速サーチャーLogRevi
部門ごとに閲覧権限を設定

インテックはログの統合管理を行う「快速サーチャーLogRevi(ログレビ)」に、部門や支店ごとにログの閲覧権限を設定できる「レコードフィルター」機能を追加し、11月より販売を開始しました。

各部門でログを活用したいという要望に応え、ログに含まれる部門名によって自部門のログのみを抽出できるようにしました。例えば営業部のユーザーには営業部のログのみを表示するなどの設定ができるようになります。ログの中に設定したい部門名が含まれていない場合でも、マスタ連携機能を利用して該当部門のログを検索することができます。

また、複数部門での同時利用が活発になることを想定し、従来の約2倍の速度で検索できるように改良しました。

お問い合わせ先：株式会社インテック ビジネスプロダクトソリューション部
TEL:03-5665-5140 E-Mail: itps_info@intec.co.jp